

北海道遺産
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第93号

2020. 7.31

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

投稿

『ピアソン忌（7月31日）に寄せて』

文責：北原俊之

ピアソン宣教師が「北海道はわが教区」(Hokkaido is my parish.)と語っていたことを裏付ける内容に出会いました。

東北学院を牙城とした米国改革派の25年のあゆみをまとめた後掲書の「北海道」の章にそのいきさつが書かれていました。本国改革派本部が北海道に新規の宣教師を配置するだけの財政的余裕がなかったので、北海道担当者を長老派（明治学院）に依頼し、長老派はその頃北海道で活動を始めていたピアソンに託したことが記されています。

翻訳（抄）

『米国改革派教会日本宣教25年のあゆみ（1879～1904）』

私たちの伝道地についての諸事実

クリストファー・ノス宣教師

【P.1】日本の人口は、一年に50万人の割合で増加しています。来年（1905年）には、間違いなく五千万人に達するでしょう。この全人口の大半が、「日本列島の」主要部をなす最大の島（本州）とその南にある二つの島（四国と九州）に居住しています。かつては「エ

ズ」、現在は「北海道」と呼ばれる北部の島は、大半が、1868年の維新（明治維新）以降に開拓・移住が始まったばかりで、現在でも、その人口は百万人弱ほどです。これらの四つの島を合わせると、カリフォルニア州の面積とほぼ同じです。「日本の国土（全体の緯度は、米国のミシシッピ川流域全体の緯度とほぼ同じ位置にあり、ミネソタ州からルイジアナ州にまたがる位置です。」（クレメント）

【P.3】私たちの教派（米国改革派）の伝道活動は、25年前（1879.6.1）に東京で開始され、現在も引き続きムーア博士 Dr. Moore を中心に東京で行われています。将来好結果が期待できそうな伝道活動が、北海道でいったんは開始されましたが、私たちの教派の伝道団は、ずっと人員不足が続いているため、「北海道での活動を」長老派教会に受け渡して、開港地・函館の独立教会を除いて活動拠点はまったくありません。私たちが主として活動する地域は、東北地方と言われる北日本で、本州の中心地からみて北東部の地域です。

伝道活動の状況：宮城県

神学博士 D・B・シュニーター宣教師

【P.21】……しかしながら、1887年の春にシノドの委員会が、仙台に新規の長老監督会を組織して、宮城監督区として、北海道（エゾ）を含めた北日本全体をカバーする広範囲の監督区を定め、M・押川牧師（押川方義）が初代の区長となりました。

【P.25】……日本基督教会の歴史上で注目すべき出来事として、1903年に宮城監督区が分割されて、北海道監督区と称する組織が区分され、北海道の伝道活動がその組織に任されることになりました。これにより、宮城監督区は、本州の東北6県を管轄す

ることとなり、この区内には、ドイツ改革派教会とオランダ改革派教会の2つが活動しています。



(写真：押川方義と吉田亀太郎)

伝道活動の状況：北海道（エゾ島）

神学博士 J・P・ムーア宣教師

【P.41】広大な島
北海道——面積は36348平方マイルで、日本の国土面積の約4分の1、あるいは、本州（本土）の面積の2分の1弱——は、宣教師が活動する場所として、重要なだけでなく、興味深く、やりがいのある場所でもあります。

1886年に押川牧師と吉田牧師により初めて伝道

この最北の島で福音伝道をする重要性、必要性を早い時期から認

識していた日本人伝道者の一人が、押川方義牧師であり、彼は、そのような思いから、1886年に、吉田亀太郎を伴って、北海道に渡り、どのような活動ができるのかを調査しました。条約を結んで開港した港の一つで、北海道の玄関口としての主要な港である函館には、長老派・改革派の様式の教会として既に献堂されていた教会があることを知りました。《※現函館相生教会(1883年12月7日献堂)桜井昭恵》

その教会の信者たちに対して、押川と吉田は教会の聖務を執り行い、そして、この地の信者たちに励まされ、勧められて、二人は、この島の南端にある室蘭と伊達紋鼈の町を訪問しました。前者の町の人びとは、この御言葉の使者たちを大いに歓迎。いくつかの集會が行われ、「郡」という行政区の長官である「郡長」をはじめ町の有力者たちが、御言葉を述べ伝えるのを聴くために参加しました。函館教会の信者たちが献金によって少々の金額を集めてくれたため、このお金の援助と、室蘭の信者の献金によって、「室蘭に」伝道所が献堂され、教会の活動が正式に始まりました。後者の地(伊達紋鼈)でも、同様の歓迎、同様の成果が御言葉の使者たちを待ち受けていました。この伝道の旅で、26人が信仰を告白し、洗礼を受けました。この二人の兄弟は、この地「北海道」には伝道が必要であることを強く

感じ、また、最初の訪問が好結果だったことに喜びながら、12月末に出発の地である仙台に戻りました。1887年二度目の訪問

その翌年、主の僕である同じ二人が二度目の訪問をして、信者達を励まし、伝道を重ねました。吉田牧師は、三カ月間現地に残り、既にできあがっている組織が円滑に機能するように、熱心に支援しました。

【P.42】吉田牧師の意欲的な努力のおかげで55人の改宗受洗の成果があり、さらに、伊達紋鼈では、教会(信徒組織)が創設されました。そして、初の教会を献堂する資金を調達するための寄付の受付が開始されました。教会献堂の計画は大いに賛同を得て、すぐにでもこの地に相応しい大きさの教会を献堂すべく決定がなされ、まもなく、すばらしく荘厳な教会が献堂されました。これを献堂するにあたり、函館の信者たちもいくらかの財政的支援をしているが、一方で、地元在住する、てん菜糖の工場と関係の深い二人のドイツ人が、気前よく極めて高額な寄付をしてくれました。この一連の動きは、伝道局や外部からの支援はまったくなしですすめられたものでした。

新たな伝道拠点が生
その後、伝道活動は、ほとんど

押川牧師の監督(指示)のもとで、札幌、小樽、滝川、釧路などでも始められました。この伝道活動は、宮城監督区の伝道委員会と連携して、財政的支援と監督(指示)を受けながら行われました。

現在の伝道活動の特徴

上記の通りに始められた伝道活動は、大いに拡大して、現在のところ5つの教会が組織され、その内の2つは独立運営となっているし、さらに5カ所の講義所(礼拝所)があるなど、全てを合わせることに なります。1902年までは、伝道活動は、すべて宮城監督区(中会ともいう)の管轄で行われ、そのカバリーする範囲は、北日本全てで、北端の島・北海道(エゾ)まで含まれていましたせいむせ。1903年に、北海道監督区(北海道中会)という独立した教会組織区が組織されて、その領域は、「北海道」という島そのものが該当します。

改革派教会伝道局日本伝道団と北海道の教会活動との結びつき
さて、米国改革派教会伝道局日本伝道団と北海道の教会活動とはどう結びついているのでしょうか。それは主として財政的な結びつきです。伝道活動が、宮城監督区の伝道委員会への管轄になった時から6・7年にわたり、各宣教師に許される支援資金は、当地(宮城

の)伝道本部が拠出する資金のみでした。当時定められていた委員会は、定員6名で、日本人、外国人それぞれ3名ずつで構成されていました。この後者(3名の外国人)は、だいたいは、改革派伝道局籍の人たちであり、行われる伝道事業は、「宮城の」伝道本部の承認が必要でしたし、また、米国伝道局から送金されてくるお金は、「宮城の」伝道本部に配置され、伝道財源から支出される形となるのです。先に述べたとおり押川牧師がこの体制を生み出した人であり、さらに、押川牧師は、この委員会のメンバーとなっていて、ことあるごとに、伝道本部の代表として、伝道地を足繁く訪問し、新規に伝道の拠点を組織したり、必要となる人の手配をしたり、あらゆることの面倒をみているのです。

長老派教会の宣教師たちが北海道に参入

押川牧師は、妻子のある宣教師を1・2家族、北海道に派遣して欲しいと、米国伝道局に幾度も建議をしました。しかし、本国では、要求された人員を配置し、支援する資金を準備することは、現状では不可能であると考えていたので、その結果、「宮城の」伝道本部が北海道で行おうとして描いていた構想を実現することが不可能となりました。

【P.43】このことで、「宮城の」伝

道本部の宣教師たちも、その本部と伝道事業との両面に深く関わっていた押川牧師も、非常に落胆しました。そのような状況でしたので当然、押川は、誰か他に支援をもとめることを考えました。ちょうどその頃、長老派の宣教師たちが、すでに札幌で女子の学校を開いていたり、さらに北海道全体で各所に腰を据えて活動しようとしていましたので、彼らなら、喜んでこの緊急事態に救いの手を差し伸べてくれ、必要とされる人的、物的な支援をしてくれるだろうと考えたのでした。そういうわけで、筆者(J・P・ムーア宣教師)が、東京にある上述「長老派」の伝道本部にいる神学博士ウイリアム・インブリー宣教師と連絡を取るようになりました。その結果、長老派教会はこの事業を引き継いでくれることに賛同し、そして、1894年にジョージ・P・ピアソン宣教師が長老派を代表する人として北海道に赴任し、札幌に住しました。その時以来、ピアソン宣教師は、日本の最果ての地にイエス・キリストの御国を拡大することに不撓不屈の熱意で活動し、大きな成果を見せています。現在、彼は、北海道のさらに奥地の「旭川」に居住しています。彼の神のために尽くそうとする熱意と自己を犠牲にしなごうとする努力が、現在キリスト教伝道活動が大いに成果を見せていることに結びついているのです。

北海道専任「専従」の宣教師

私たち改革派の宣教師団は、人的・財力不足のため勢力を撤収し他教派に道を譲りますが、「だからといって」北海道で福音伝道することに積極的役割を果たすという考えや目的を放棄することでは決してありませんでした。それゆえに、1896年、日本の宣教師団は、当時の全宣教師が居住していた仙台に加えて、東京、山形、北海道に数カ所伝道拠点を設けられるよう、本国の伝道局に要求をあげました。本国伝道局はこの要求に快く応じてくれたため、筆者は東京に、H・K・ミラー宣教師は山形に、S・S・スナイダー宣教師は北海道の数カ所に配置されることとなりました。しかし、ホイ宣教師の病気により仙台の陣容に不足をきたすため、スナイダー宣教師は北海道に配置されることではなく、結局はその時点で、宮城の宣教師団は、そのように重要な活動拠点（北海道のこと）に専属の担当者をおけないままとなっているのです。

1902年、外勤役員による現地視察

1902(明治35)年に、本国伝道局の外勤役員である、A・V・キャッセルマン宣教師が、C・ノス宣教師を伴って、北海道(の島)内をまわって現地視察をし伝道の必要度を調査しました。私たちの

伝道団としては、他教派の伝道団と協働しながらでも福音伝道する一翼を担える時が来るのを楽しみにしているのです——この日本最北の島で、しかも、この本文の冒頭に記したように広大な面積の地域であり、土壌は極めて肥沃で資源に満ちあふれている地域で。



(写真：北海道を視察するA・V・キャッセルマン宣教師)

「今後の」展望

ピアソン宣教師のことを引用すると、「北海道は」福音伝道すべき人の数が続々と増え続けています。「北海道の」自然環境や社会的状況が自由な気風を育み、全く不慣れた土地で生活するという戸惑いと孤独感が、心の安定を求めることにつながっているのです。兵士(屯田兵)が切り開いた農場である兵村や、炭鉱の町などは、真っ先に福音伝道すべき拠点

です。」また別の文脈では、「北海道は青年期を迎えている——もはや幼年期ではありません——」。

【P.44】まさに、前途有望な島なのです。デンドウ(福音伝道活動のこと)は、すでに、私たちの前に膨大に待機しているのです、今こそ行動を開始しなければなりません。」

この北海道の稿を締めくくりにあたり、私たちは宣教師団の一つとして、当初から北海道での伝道に関わってきたこともあり、また、この地が伝道の必要性を増していることもあり、きちんと方向づけられた活動に努めれば必ず素晴らしい成果が得られるはずですから、できれば将来、私たちの宣教師団も宣教師一家族か二つほど、この前途有望な北海道に拠点を構えていることを希望し、そうできるよう祈りたい。

【P.101】日本基督教会宣教師団と本国伝道本部との関係について

神学博士D・B・シュニーター宣教師

【P.102】いくつかの統計値

現在、日本基督教会は、北は北海道(エゾという島)から南は台湾までという二千マイルの距離の範囲に広く存在しています。中国や朝鮮に在留する日本人の居住地にもそれぞれ伝道所があります。監督区は6つになっています。各地区での大会はいまのところ行われていません。総会(全国大会)

は年に一度行われ、一般的なやりかたで事業・案件・議事などを処理します。1902年集約された総信者数は12,467人、献金された総額は40,013円35銭(約20,006ドル68セント)でした。



北見仁頃生まれ わはっか 和薄荷

頒布 / 1,000円



この「取り卸し油」は、北見の「仁頃香りの会」が、当時の薄荷の隆盛を偲び、技術伝承のために栽培蒸留したものです。ドライブの眠気覚まし、登山キャンピングなどの虫除け、また、浴槽のお湯に二回程度噴霧することでストレス解消に効果があるといわれています。トイレ等の芳香剤としても使用できます。

ピアソン邸の設計者、ヴォーリスは、北見産薄荷で作られた薬「メンソレータム」を日本で販売する権利を米国ハイド氏より受け販売し、活動の一助として薄荷を当記念館でも販売協力し、文化活動の一助にしています。(ピアソン会では、スプレーでの販売もしています。)



第28回文化サロンのピアノ 芸術の秋「クラシックギター"生"コンサート」

- ◎ 9月26日(土) : 午後5時～午後6時まで (開場午後4時半)
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館 (北見市幸町7-4-28)
- ◎ 演奏者 : 森元裕太 (ギター奏者&ギター教室主宰)
- ◎ 予約券 : 500円、30名以内、事前予約必要 (中学生以上)
- ◎ 問い合わせ : ピアソン会 (電話 0157-31-1215)

※詳しくはピアソン記念館 HP <http://www.npo-pierson.org/>



お断り！
新型コロナウイルスの感染状況によつては、演奏会中止になる場合もあります。密を避け会話の制限などを実施し、少人数制限でのコンサートとなります。ことにご理解下さい。

「ニュージージーランドからの便り」第23回



ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏

2020.6.12

◆最新のピアソン便りとメッセージありがとうございます。ニュージージーランドでは20日間も感染者がなく、今週からは、国内移動は自由ですし、集まりも制限なしに。数ヶ月来のラグビー試合予定も皆が楽しみにしています。

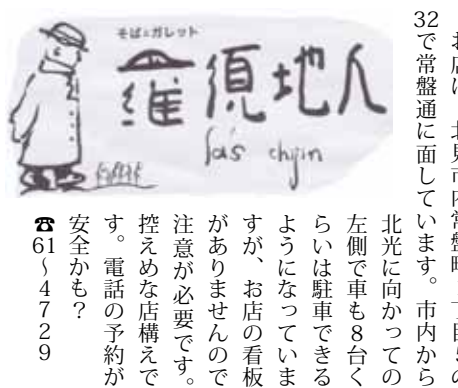
◆水曜日に、6ヶ月ぶりくらいにワングヌイへ南下し、農場のコテツジに滞在中です。今朝、果樹園を見て回ったら、リンゴが少し木に残っていました。先に、収穫物は近所に分けるよう頼んでいたのですが、予期せぬ嬉しさでした。天候は涼しく、定まりませんが、快適な住み心地。◆海外との国境は閉鎖で、残念ながらいつ日本へ行けるかわかりません。

2020.6.25
◆メッセージと新聞記事、とても興味深いです。ワングヌイで、携帯電話の画面が小さく、時間がかかりました。誕生日にとの皆さんの「会話」は特に嬉しかったです。ファンガパラオアへ戻ってからコンピュータ画面で拡大し、またゆっくり読めました。北見は良い季節で何よりです。ウィルスにかかりませんように。ワングヌイへは半年ぶり。従兄弟のステイブ夫妻はとても親切で、プラムをフリーザーで保管してくれてあり、どっさりあったので持ち帰り、姉や弟たちとも分けて美味しさを味わいました。この庭で初のレタスや豆が採れました。留守の間に雨が降り、昨夜も降ったので、気温もよく作物にも良いです。

◆幸いなことにウィルスは収まり、移



(写真) 大伯父ヒュー・ゴールドズベリーと妻 ナンスの墓碑。



◆ここは冬の寒さですが、薪ストーブのおかげで快適です。先日、弟と北へのドライブでカイバラ(湾) 港近くのパパロアの小さな集落へ行きました。よく知らない地域でしたが、最近、大伯父ヒュー・ゴールドズベリーと妻ナンスがその墓地に埋葬されているとわかったのです。ヒューは祖父の兄で、その地方の小学校教師でした。夫妻に

子供はなく、私たちが一番近い子孫になりません。嬉しいことに、地域の小さな墓地にお墓が見つかりました。そのあと、ヒューの記録にある他の場所も訪ねました。最初に行ったパヒは、カイバラ湾にある村で、休日用家屋や波止場があり、静かで落ち着いていました。開拓当初は、カウリ(木の名)材の出荷に重要な港湾でした。二番目のマレレツは、パパロアからは内陸になり、地域開発計画を担った歴史的な鉄道が、再建されて通っています。

◆北島の中央を北上して戻りましたが、ルアペフ山の裾野まで雪でした。8月にはまたワングヌイへ行く予定です。

◆祖父モンタギュー・ゴールドズベリーが、ヒューの死直前の1958年に出版した彼を記念する小冊子は、書き残されていた幾つかの詩と思考が中心です。彼らの想いは、ピアソン夫妻が書き記し発表していたものと違わないのです。ヒューは、ピアソン夫妻と同時に生きた、クウエイカー教徒でしたが、深いキリスト教信仰に基づき、同じように高い理想に従い、それを探求していました。

◆祖父モンタギュー・ゴールドズベリーが、ヒューの死直前の1958年に出版した彼を記念する小冊子は、書き残されていた幾つかの詩と思考が中心です。彼らの想いは、ピアソン夫妻が書き記し発表していたものと違わないのです。ヒューは、ピアソン夫妻と同時に生きた、クウエイカー教徒でしたが、深いキリスト教信仰に基づき、同じように高い理想に従い、それを探求していました。

〈記者注〉ハード氏から、『ヒューの関心事について何か見つかるとはいいない』、と信仰的な詩一篇(わたしの幸運)を、身にあまりある1960年)がありました。省略)

味処誕生!!



ピアソンハーブ部会の小林さん(北海道フードマイスター)が、ご主人と念願のお蕎麦屋「羅須地人」を6月27日にオープンしました。土・日の午前11時から午後2時まで。こだわりの30食限定による営業です。

お店は、北見市内常盤町1丁目5の32で常盤通に面しています。市内から北光に向かっ左側で車も8台くらいは駐車できるようになっていますが、お店の看板がありませんので注意が必要です。控えめな店構えです。電話の予約が安全かも? 61-4729



絵を描く人

コロナ感染がニュースで騒がれている6月上旬、来館者の少ないピアソン記念館の窓から庭を眺めてみると、一人の婦人が毎日ピアソン記念館を絵に描いている姿が目にとまりました。優雅な心で時の風景をキャンバスに!。そんな後ろ姿を写真に収めてみました。勿論ご本人の許可をいただいたので撮影です。

編集後記

去る6月14日、病氣療養中のピアソン会顧問池田晶信氏が永眠致しました。ピアソン会設立当初からの役員でもあり享年90歳。「新型コロナウイルスウィルス感染予防」のため、葬儀は献花台にての拝礼。ここに謹んで報告させていただきます。

さて、93号をお届けいたします。ピアソン師の命日である7月31日の発行にちなんで、北原氏が相応しい資料を投稿してくださいました。研究資料として貴重なものです。グリーンコンサートを今年も実施できませんでした。寂しい7月でしたが、来年には実施できるように努めてほしいものです。

注意深く、そして賢く、共に笑顔でこの危機を頑張りましょう!

(理事兼事務局長) 伊藤 悟